

本会の活動から

第67回予防医学事業推進全国大会が開催

第67回予防医学事業推進全国大会が2022年10月28日、「ウィズコロナ時代の活力ある健康長寿社会を目指して」をテーマに鹿児島県鹿児島市で開催され、全国の支部から約300人が参加した。

記念講演では「予防に勝る治療なし——鹿児島からのメッセージ」をテーマに大石充氏（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科心臓血管・高血圧内科学教授）による講演が行われた。

また記念式典では、予防医学事業の発展・向上に顕著な功績のあった40人の表彰が行われ、本会からは統計事務部長の石山稔に中央会賞（小宮記念賞）が、地域・学校保健事業部と母子保健検査部の職員2人に奨励賞が贈られた。

東海大学生の現場実習に協力

本会では毎年、東海大学医学部看護学科が行う公衆衛生看護学に関する統合実習に協力している。今年度も10月11日に6人の学生を受け入れた。



実習では、労働衛生機関における看護職の役割についての聴講などが行われた（写真上）。

産業医科大学生の現場実習に協力

本会では毎年、産業医科大学が医学部の5年生を対象に行っている産業医学現場実習に協力している。この実習は、現場における産業医の役割と活動を学生が実際に体験することで、産業医業務に関する理解を深め、産業医志向をより高めることを目的に、全国の事業所で行われている。今年度は11月14～18日の5日間、医学生2人を受け入れた（写真下）。

学術集会への参加等

血検査の検体を受け付けた。

●第402回東京産科婦人科学会例会が2022年9月17日に開催され、検査研究センター長の久布白兼行が参加した。

●第38回日本診療放射線技師学術大会が2022年9月16～18日、「タスク・ソフト／シェアに伴う業務拡大を推進しよう——革新への挑戦」をテーマに兵庫県神戸市で開催され、放射線部の職員1人が参加した。

●第30回日本がん検診・診断学会総会が2022年9月29～30日、「がん検診・診断 次の一歩!! with corona/after corona あなたはどのように踏み出しますか?」をテーマに開催され、検査研究センター長の久布白兼行が参加した。

●第31回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会（同時開催）第36回関東臨床細胞学会学術集会／第39回神奈川県臨床細胞学会学術集会が2022年10月15～16日、「科学的エビデンスと受診者ニーズを備えた細胞診・検診に向かって」をテーマに神奈川県横浜市で開催され、検査研究センター長の久布白兼行と地域・学校保健事業部事業二課、母子保健検査部母子保健検査二科の職員2人が参加した。

●このうち一般演題で母子保健検査部母子保健検査二科の梅田昂暉が「閉経後女性の萎縮像における過大・過小評価例の検討」と題して発表した。第144回関東連合産科婦人科学会総会・学術

集会在2022年10月15～16日、山梨県甲府市で開催され、検査研究センター長の久布白兼行が参加した。

●第30回日本消化器関連学会週間（JDDW 2022 FUKUOKA）が2022年10月27～30日、福岡県福岡市で開催され、消化器診断部長の川崎成郎が参加した。

●第56回日本側彎症学会学術集会が2022年11月4～5日、「伝承と伝統、そして革新」をテーマに千葉県浦安市で開催され、事業本部地域・学校担当本部長の阿部勝巳と地域・学校保健事業部長の高橋政道、同部事業一課の職員1人が参加した。

●第61回日本臨床細胞学会秋期大会が2022年11月5～6日、「細胞診と学際」をテーマに宮城県仙台市で開催され、検査研究センター長の久布白兼行と母子保健検査部母子保健検査一科の職員2人が参加した。このうち綾部友紀は「ASC-H 症例の検討——異型細胞集塊の出現状態と核分裂像を中心に」と題して本会の取り組みについて発表した。

●第32回日本乳癌検診学会学術総会が2022年11月11～12日、「Breast Awareness——知識と意識を行動へ」をテーマに静岡県浜松市で開催され、地域・学校保健事業部事業二課の職員2人が参加した。

●第53回全国学校保健・学校医大会が2022年11月12日、「子どもたちの『生きる力』を育む」をテーマに岩手県盛岡市で開催され、事業本部地域・学校担当本部長の阿部勝巳が参加した。

本会の新生児マスキリーニング事業の研究成果をまとめた論文が米国内分泌学会誌に掲載

本会の新生児マスキリーニング事業での研究成果を母子保健検査部小児スクリーニング科の渡辺和宏が「21水酸化酵素欠損症の新生児マスキリーニングにおける2IDOF[®]（4AD+17α OHP）/Fおよび1IDOF/17α OHPの高度な妥当性について」と題する論文を執筆した。

世界でも有数の検査規模を誇る本会の新生児マスキリーニング事業で蓄積したデータを用いた本論文は、「21水酸化酵素欠損症患者をより効率的に早期発見するための検討を行い、日本独自の検査指標の有用性を示した」として、米国内分泌学会が発行する『The Journal of Clinical Endocrinology Metabolism (JCEM)』に2022年9月8日に掲載された。（米国内分泌学会「内分泌学」に関して世界で最も権威のある学会。JCEM「内分泌の臨床研究と診療に関する査読誌」）

Tokyo健康ウォーク2022に協力

ウォーキングコースを歩きながら、大腸がんについて楽しく学んでいく参加型のイベント「Tokyo健康ウォーク」（主催 東京都、ブレイブサークル運営委員会）が2022年11月13日に東京都国立市周辺で開催され、約850人の市民が参加した。本会は、40歳以上の希望者を対象とした「無料大腸がん検診」に協力。300人の便潜

小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります（保険診療）。
本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

前田美穂先生による
『貧血電話相談室』

養護教諭・保健師・看護師からの相談をお受けします（無料）

開催日：第1火曜日 14時半～15時半

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上睦美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	鮎澤 衛 日本大学医学部 客員教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院 名誉院長	岡田知雄 日本大学医学部 客員教授
外来日	第3木曜日 午前	第1木曜日 午後	不定期	第1火曜日 午後 第2月曜日 午後 第4金曜日 午後	第3火曜日 午後	第2木曜日 午後

問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 地域・学校保健事業部

東京都新宿区市谷砂土原町1-2

03-3269-1131

小児健康相談室